

豆腐5万丁贈る

県にパラグアイ大使

パラグアイ共和国の豊歳直之駐日大使は14日、県庁に佐藤雄平知事を訪問し、被災者支援のため同国の日系人農家が生産した大豆で作った豆腐5万丁を贈った。豆腐は、県内の避難所



佐藤知事に豆腐を贈る
豊歳大使㊦

で生活する被災者に贈られる。豊歳大使は「一日も早い復興と、原発事故の収束を願っている。豆腐の材料の大豆は日系移住者が生産したもの。被災者に食べてほしい」と述べ、佐藤知事は「訪問を復興の大きな力にしたい」と述べた。

同国の日系人農家は「祖国のために何かしたい」と大豆100トを提供。製造のための費用は同国日本人会が募金を呼び掛け集めたほか、同国からの支援金1千万円で賄った。

小田俊春同国日本人会連

合会長、福井一朗イグアス市日本人会連合会長、被災者への豆腐配布を支援する八幡屋（石川町）の渡辺忠栄社長、豆腐製造プロジェクトを支援するギアリンクス（岐阜県）の中田智洋社長が同行した。

福島民友

2011年6月15日(水)